

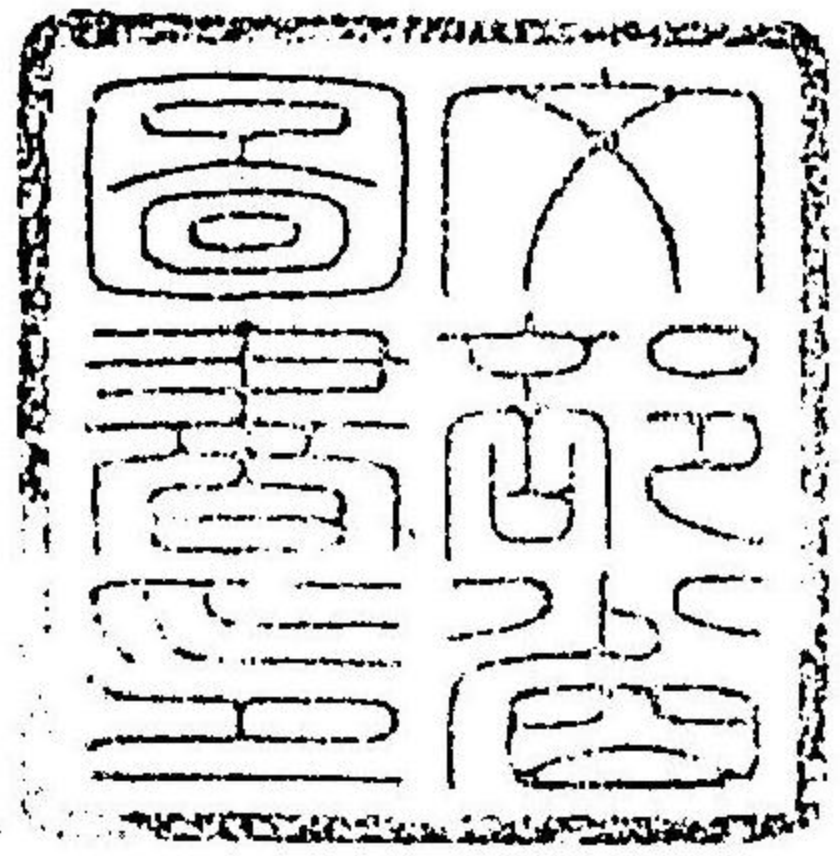
幼童手以去草下

館函架號

館函架號		
館函架號		
館函架號		
冊	號	架 函

607  
共  
六  
本





幼童手引草三編卷之下

目錄

「ダマスシーニング」へム「プ」及び帆布 第一葉  
「レヒース」 第二葉

棉花 第三葉

南京布 第四葉

「マスリシグレイ」及び「ケムロット」 第五葉

「ケシユミール」シャルス 第六葉

絹及び蠶 第八葉

絹襪 第十五葉



扇第十七葉

「ボプリ」及び天鷲織 第十八葉

「経帯」第二十葉

「ス」第廿一葉

幼童手引草三編卷之下

沼津 杉田擴女端 譯

問 ダマスシーニングとい甚麼様の物ありや

答 鋼の諸般の圖画を刻之の金銀の線を填

こゝたをさあり、而して刀劍の身拳銃の機

關等の飾之に用ゐたり、

問 「へム」大とハ甚麼様のものありや

答 最有益なる草莖の纖維部にして通常の草



麻乃如し、

問 其所需ハ如何ありや、

答 微細なる部を亞麻乃如く製し、紡績し之を帆布及び強布ニ織成あり、

問 帆布ハ最緊要なるものなりや、

答 然り、帆布ふけぬ帆舟も亦ふかぬ、英國及び蘇格蘭よりハ其目的のため甚だ盛んにこれを織出すあり、

問 帆布に品類六七種あるものや、

答 其造らんとする帆の大又裏に應つて品類

を分てり、

問 東印土人の大帆ハ凡幾許ヤルドハ一我ヤルド

許四方ありや、

答 殆ど七百ヤルドあり、大船ニ在る帆の全數

ハ約四十張あり、約九千ヤルドを入用とんるあり、

問 其他「ム」ハ何物を製せりや、

答 各個の縫糸、索繩、錨綱及び繩具を製し、

問 「ヒースト」名くるハ如何あるものありや、

答 繩屑あり、往時ハ大砲の硫磺ニ點火する



か用ゐる、又戦争に臨んで受けたる創口より出血するを止むるに用ゐるが、方今ハ機器の油を除く為ニ多く用ふ、

問 「ムプ」の大交易ハ何ノ國より來セリヤ、

答 英國の「ムプ」ハ多く魯西亞より來れ共「サ

ホルク」及び「ホルホルク」ハ之を培養せり、

問 古人ハ其大量を帆縁ハ費用せざりヤ、

答 然リ、古人の船ハ徒ハ遊船なるのニ、神祭中

河面ハ浮べる為ニ之を造る、（イ）ハ「クレオパト

ラ」（イ）名が遊船ハ乗りて「シドニ」河を渡り「マ

ク・ア・ントニ」（イ）名ハ會合ハ行キ一時の如シ、

問 棉花（イ）トハ如何あるものありヤ、

答 羽毛の如キ物体ハ「熟成」至ルハ破れ

たる穀皮の内ニ含ミテ雪白若クハ黄色を帶

ビたるものあり、

問 此草ハ何地ニ産ルヤ、

答 上好の品ハ東西兩印土より來れ共合衆國

及び澳大利亞（イ）中々多く産ル、而シテ年々其

子より生シテ大なる高ク長養ル、

問 但シ其ハ歐羅巴洲ハ培養するものありヤ、

三編下 三 支那信蔵反



答 培栽せり、但し今歐羅巴より出るもの意外  
は少あり、

問 合衆國の培栽せる棉花は二種あらや、  
答 有り、上好の品は海島棉花と称し、南カリ  
フォルニア等の砂渚の産物、然れ共只少量

は産はべとのと、  
問 其他の種は如何名くるや、

答 内地棉花と云、下品は属し、此種は有力なる  
機器を以て穀皮より取分くるあり、

問 其は如何して種を下せりや、

答 春時耕耘せる畑に種を下せり、

問 千八百四十五年は我弘化は大不列顛に輸入  
せる量約幾何許ありや、

答 七億二千万斤あり、

問 千八百〇五年は我文化は幾何許ありや、

答 大約六千万斤あり、多分千八百六十年は我  
元の廿五分一より少かるべし、

問 棉花は灌木より産する他種はあらや、

答 有り、其高四尺より六尺に至り六年より多  
く生存するものあり、



問 其の二種あるとあるや、

答 有り、一種ハ甚だ白く一種ハ黄帯棕色あり、

問 其黄帯棕色のもの乃より如何なる布片を織成せりや、

答 南京布イロシキ

問 棉樹と云ものなるや、

答 有り、埃及ハ二種を産トて甚だ大とくあり、

問 其れより如何なる品を造り成せりや、

答 「カリ」木綿「マスリン」ガミ「クイ」及び其他許

多の織物を造りあるせり、

問 「マスリン」如何なるものありや、

答 全く棉花より織れる織細ハ薄く透明なる布あり、

問 其羨ある織物の始め何地より来れるや、

答 東印土の内特ハ「ベンガ」あり、而して其國の内ハ「テカ」ト云へる一州久しく其上品を出ると因て有名あり、

問 東印土「マスリン」ハ有名なりとて用ひ程良好ありや、



答 否、今ハ「ガラズボウ」及び「ハイスレイ」よ、

同、く良好ハ織出を以てあり、

問 其二邑ハ何地ハありや、

答 蘇格蘭の「ラナーク」及び「ロニフリン」の郡中

ハ在り、

問 「クレープ」紗織トハ甚麼様あるもはありや、

答 以太利の「ボロク」名地ハ創意せる粗織の

薄と絹布あり、

問 「ケムレット」又「カムロト」トハ如何あるものか

りや、按、ケムレットハ羽紗即チゴロ

5

答 おもハ山羊毛を以て織たる布片あり、

問 上好の「ケシミール・シャウルス」塔勝ハ何を以

て織成せりや、

答 意貌峯廻の圖伯特及び「喀什迷爾」又「韃韃」ハ

在る一種の山羊毛を以て織成せり、

問 其ハ甚だ高價ありや、

答 然リ、其種ハ一片の價二三ギニー貨幣

一ギニーニハ我金許あるを知らり、而して其

甚だ高價ふる品ハ韃韃・圖伯特及び波斯ハ産

せる廣尾羊の毛より亦之を織成せり、



問 其製作の甚だ時日を費はしおらるにや、

答 然り、其上好ふる品ハ一間の店より一周歲

少只一片を織ると少からにき、

問 其故ハ如何、

答 此水を如何に勉強して織れるハ四分十の

一を三人より一日ハ完成するに能ハレ、時と

してハ各室ハ各片づつを編成し、然して後こ

れを精工ハ相接続せり、

問 歐羅巴ハ於て「ジャウル」を流行せしめしハ誰

そや、

答 拿破崙ハナパルテの最初の夫人「ジョーゼヒ

シ」あり、蓋し拿破崙ハ埃及ニ艦送の後「ジャウル

」の上好ふる模範を其夫人ハ輸送せしあり、

問 「ジョーゼヒシ」ハ之を装束する方子を誰ハ教へ

らるにや、

答 「ゼ子ラール」名官ラ「プ」ハ教へられたり、一タ「ラッ

プ」ハ一婦人の「ジャウル」を埃及風ハ装して歌戲

場ニ出るを暫時留め置きて之を見たるあり、

問 其「ケシユミール」の取扱ハ就ヒ如何なる厄運

来りしや、



答 拿破崙の生命あり、早晚無益の費やせる地獄の機器と云々、蓋し「ジャウル」の歐羅巴の形勢を全く一變して諸件は他の方向を与へたるも亦あり、

問 其事件は後日ハ證を「ジョーセヒン」の「ジャウル」の為に憂患を起さざりや、

答 恐くハ他其數百五十を擲ち一ヶ為あり其ハ何れも羨あるものも其死後ハ遙り其價下落しければあり、

問 英國ハ於てハ如何ハ有智ある工夫ありて

棉花の製造は大なる奮發を起せりや、

答 千七百六十年我空曆の頃「ゼームス・ハルグレイ」ウイス云人棉花の織維を真正アサカなはため梳カシづりて軟かにするの器械ドクダを發明し、又許多の綿糸モウシを容易に紡績ツグするの器械を發明せり、

問 世界中何地の棉製局モンオリバを最有名とあるや、

答 「マンチストル」及び英國の製造局サバある諸邑、

問 英國乃大棉製局ハ紡績ツグエ一日ハ幾人宛ツグ操作サイソクせりや、



答 太約五萬人あり、而して其人一日の棉絲の長サ六萬里餘を製せしむ、

問 英國棉製局の廣大なるに因り英國の貿易と國民の幸福とは大に催進するをみるや、

答 然り、これを他國の産物と交易するたゞ世界隔遠の地の輸出するに因る、

問 絹とは怎麼様のものありや、

答 蠶と名けたる一種の蠅の産物あり、此蠶は「モツ」と云昆蟲の卵より生れ、其小虫は如何なる水を所置せりや、

答 各蠶凡二百個の卵を産せり、此卵は桑樹の中心の家を造りて其内を置きて昼夜共之を看守するあり、

問 蚕ハ甚だ精妙なる昆蟲かあらんや、

答 然り、「モツ」の産せたる小卵より一個の小蟲を生むれば凡三十日の間桑葉の細小を食して其ものを以て養ふあり、此の如くする時ハ其蟲全く長育して大なる白蟲となるあり、

問 其時ハ其蟲如何せりや、

答 其蟲食を止むるに至る、此時これ



小なる拂子ハシの如きもの即チ其灌木の蒂ハシ子の形をありたるも死を与ふれば其死之ハ齒珠ハシを造り始むるあり、

問 其後ハ如何なるや、

答 第三日ハ其体を見せざるハ至り第十日ハ其業を終り、

問 今其球ハ之を何と名づくや、

答 「コクニ」と名づく、而して此の如くある蟲を蛹マリスと名づく、

問 今其を如何なるせりや、

答 直ハ其絹絲を巻と取るべし、然らざれば其

之を出でんとし、絹絲を損壞せんべし、

問 其蟲ハ之を殺せるや、教示を乞ふ、

答 否、其ハ一個暗棕色の癭カビとなり又後

白色の「モツ」ハ變じ、

問 其微妙なる其ハ尚他の變化をあるせりや、

答 否、「モツ」ハ翌年の蟲とあり為の卵を産して

後直ハ死を候なり、

問 其昆虫ハ何地に於て著明ありや、

答 唐山・東印土・列般多・以太利の諸部及び是斑



牙の南部あり、

問 其有益なる昆虫を如何ふして歐羅巴へ輸送し來れるや、

答 蚕卵ハ之を秘するが故ハ唐山より公斯當丁チふまでハ竹筒の中へ入水ミを竊ヒかじ持來り、其地ハ速ハ之を蕃殖フして量多クふありたり、

問 其ハ何頃ノの支ありや、  
答 我主降生乃後約五百三十年ニ我繼ニ休天ニ皇ニシヤスチニアン帝の時代あり、

問 「モレ」の人民ハ蚕の養方カハ有名ありや、

答 然り、「モレ」ハ希臘語桑樹ノの義たる「モレ」アより採り名ヲけたるあり、其地ハ養蚕のため許多の桑樹ヲを植ゑ付けたり、  
問 蚕の産物ノより絹を製する好工夫ハ誰よりハなりや、

答 地中海の多島海中なるコス島の住民あり、  
問 其住民ハ何地より其法を得たりや、

答 素ヲより蚕を産したる「セリ」力より得たり、然れ共羅馬人ハ絹を蚕の作る所と信ぜざるも久し、



問 セリカとハ何地の地名ありや、

答 亞細亞洲中の一國あり、我輩恒河と東洋との間あり、多分支那と此間ありと考察せり、

問 縮ハ多年甚た僅少なるをふさや、

答 有り、曾て黄金と量目替ふて交易せしことあり、

問 羅馬帝の内其費用の甚大なるを驚と其妃

と紫絹の外套を拒しハ誰そや、

答 アウレリアン帝あり、

問 英國より始めて植付けたる桑樹今も尚ありや、

答 有り、アーツアムブルランド公の居處なる

シオン・ハウスにあり、果實ハ尚絶へば産する

と雖も英國の氣候甚た寒冷ゆゑ蚕を養ふ

ハ甚た宜しうは、

問 佛蘭西ハ蚕を輸りハ誰ぞや、

答 テセルレにあり、然れ共此人大スールリ家僧

地の領よりハ亦許多の妨碍を受けたり、

問 但し其君主「ヘンリ」第四ハ蚕の自國ハ利



益を起しべきを考察せざりや、

答 然り、ヘンリー第四ハ桑柘樹を王家の諸園  
ニ培養し且蚕卵を是班牙より取寄て大ニ佛  
蘭西民の幸福を増加せり、是佛國よりハ今も  
尚絹を互市場の一利益品とすハハふり、  
問 生絹を製するがため英國より始めし機  
器を設け立ふるハ誰そや、

答 「ジャコーム・マス・ロム」千七百十九年  
「デルヒ」に於て設け立たり、蓋し其模範ハ其  
第弊衣ふて以太利の一製造局に至り暫時操

作せし後其地より「ロム」に送り越せしあり、

問 其操作ハ甚麼様ふりや、  
答 絹を織り成るハ宜しうしむるがため  
を巻と重複ハ合せ且組成をかくるあり、此  
發明を得ざりし前ハ物品と共に織工を外國  
より雇ふを要したり、

問 此發明を得んとして甚有活潑なる少年自ら  
甚麼様の危険ハ遭遇せしや、  
答 死に至り、其故ハ以太利人持り久しく此  
術を得たれば也を他ニ漏さざる為ハ最嚴酷



ある法を設けたらあり、

問 弟「ロム」の其秘訣を如何して覚へ得しや、  
答 他「紡績器」の看守とあると得又暫時の

して工場に睡ると得たり、然れ共他「睡  
る間を睡らば自ら「硫抄」と暗燈」に掛るハ  
我が類あるべしと或備へて機器の緊要部  
を「圖画」作り且之を英國に送り了遂に亡命  
せり、

問 其ハ疑察を起さざりしや、

答 然り、一隻の以太利船追手して出け共

他「無難」して英國に到着したり、

問 他「己」の工場にて操作を見るに至

るまで存活せしや、

答 否、他「不時」死に至れり、其死ハ通例人の

信する如く以太利にある敵の為に使はれた  
る人より服させられたる緩性の毒薬に因る  
と云、

問 不列顛の絹布の知れ渡りたるハ何頃あり

しや、

答 往時七百八十年 我天應の頃「チャールマン」と



云人「メルシイ」の王「オッ」の絹の帯一條と外套  
二具と被贈れるを以て權輿とあす、

問 英王の始めて莫大小を双手に穿ち「誰  
あるや、

答 顯理第二王あり、蓋し其創意は是斑牙より  
起れりと雖も顯理第八王及び義徳瓦第六王  
の治世より之を聞知るとかかりトあり、

問 義徳瓦第六王ハ莫大小を呈せ「誰ぞや、  
答 ト「マスグレスハム君あり、此人大小之水  
為ハ工夫を凝ら「たり、

問 始め絹襪を穿ち「誰ぞや、

答 「カテリン・デ・メヂシス」あり、此婦ハ手足の比  
例甚た宜「からざるを好くせん「種々ハ  
工夫「けねば之を穿つ「時間ハ考慮「を影  
「く費「たり、

問 其婦人ハ服飾ハ甚た精巧を極めざり「や、  
答 然り、彼ハ獵師の大家あねバ女子の衆鞍を  
工夫「たり、

問 英國ハ黒と絹の莫大小を造り始め「ハ  
誰ぞや、



答 「ヘンリイック」あり、其夫「チャーレス」第一及「ピエ  
 アレス」第二とハ他の莫大小を着るものと稀  
 ハこれありたり、

問 「ゼームス」第一・蘇格蘭の王たり一時如何の  
 説話ありや、

答 他英國の使節ハ對面を名ハ「マル」侯より絹  
 ハ莫大小を借りて穿ちたり、其ハ他外國人の  
 面前ハ不作法の人と見ゆべきを恐れとあり、

問 他如何にして如斯ハふせや、  
 答 他ハ外國人を粗惡ある住家の中を踊り

問 何ふる責を考へや、

答 他ハ政治を執る第三年ハ於て縮布を織る  
 女工ハ命一其最驚異とべき義服二具を製  
 一ハ爾後決して哆羅絨の服を着るるあり

問 他ハ衣服を多く備ふるを狂ハ類とるに  
 否や、

答 然り、死して後衣服を貯蔵する室ハ三十種

問 他如何にして云へる小因るあり、  
 答 女王「エリザベツ」の縮の莫大小ハ就きて如

問 他如何にして云へる小因るあり、  
 答 然り、死して後衣服を貯蔵する室ハ三十種



問 其朝服外套の内ハ比輪を表を付もせりか  
の衣服はりと云へり、

答 有り、其一衣の縁飾ハ眼と耳と或縫ハ附

け、其臂ハ真珠と紅寶石とを以て一隻の蛇  
を縫ハ出シ其口ハ大なる紅寶石を箱入たり、

問 其徽章ハ何をもて如何なるを徴知せりや、

答 用心と有智とを徴知せり、

問 其女王の甚だ美麗ハ体を被包するの無益  
あるを議して王位を退りしり誰ぞや、

答 一人の高僧ふてあり、然るハ女王ハ其諷

諫を誤解し其侍婢ハ謂て曰く教長此等の物

品ハ尚議論せしふらハ朕彼を天の如く思ふ

べし、然れハ他天ハ道遙をゆの杖なく又其外

套を已ッ後ハ遺さざるを得ざらん、富言不

問 エリサベツの治世ハ貴女の領飾甚だ大

あらざりや、

答 大なり、我輩説話するを聞く、其女王命を下

して領飾の一ヤルド尺許尺三より深きも乃あ

らバ之を切除けんがため市井の関門ハ番人



を立せ置きたりや、

問 其嫌惡とつと領飾ハ何の時代より行ハれ  
一や、

答 「ゼームス第一の治世の中頃までの、當時  
トーマス・アパービュライ君を毒殺せる黨との  
女君クル子ル一人これを掛けて他ハ全く之  
を廢したり、

問 扇ハ往古より之を用ゐるや、

答 然り、此物の習用ハ東方諸國より借り來れ  
り、蓋一東方諸國ハ氣候熱する故ハ日輝及

ハ蠅を避くるがため扇子及び涼傘を用ゐる  
るを得ざるあり、

問 東方の之を製造するハ何物を以てせ  
りや、

答 羽毛を以て造るを尤とるハ、而して其最立  
派あるハ孔雀の羽毛ありと云、

問 女王馬里の時代の扇子ハ甚だ簡便なる  
のハあらばや、

答 然り、貴女の輩ハ長一ヤルドの柄ある扇を  
持ち履之を以て其小児及び召便を折檻せり



問 扇子ハ支那人の服飾ハ缺クベシクヤ  
のあらはや

答 然リ、貴女も亦貴人の氣候寒冷ある時と雖  
も決一ツ也を其体より離るるあり

問 「ボプリ」<sup>「キヌゴ」</sup>如何あるものありや  
答 絹と羊毛とより織成したる義ある織物

問 「エル」<sup>「ト」</sup>織天鷲如何あるものありや  
答 絹を以て織成せる義ある反物一ツ表ハ

密一ツ短ハ細毛を掩ヒ裏ハ甚だ短

かき厚き組織をあら

問 其細毛ハ如何一ツ也を作れりや  
答 工人長く一ツ狭き溝を具したる定木<sup>即チ</sup>鐵

ハ經を挂け其一部を切り、織細ある毛茸と  
あすあり

問 之れを切るハ如何一ツ也作せるや  
答 銳利なる鋼器を針の溝ハ浴<sup>ハ</sup>經の端まで

引きて切るあり  
問 其工作ハ甚だ緩慢ハ何らや  
答 然リ、之を織る間種々の工技を要する故



小甚だ精勤する織工にして長日操作して扁  
平なる「エルエツト」只小一ヤルドのこを織り立  
つべし、

問 其製作處の尤<sup>ナ</sup>し最良あるハ何地か何  
りや、

答 佛蘭西及び以太利より特ハ威尼斯米蘭

「フロレンス」及び「ラッカ」あり、

問 「エツプ」ハ如何なる義を徴せりや、

答 相互小組を合せたる経より成る組織を云  
而して其堅ハ延長するハ其を經「カ」ルと名づけ

横小行くハ其を緯「カ」フと名づく、

問 組織の格式ハ如何にして造れりや、

答 緯線<sup>ウヰ</sup>を必しも經線<sup>キョウ</sup>の上小引かた却て其下  
小射<sup>サシ</sup>出して經線の二三若くハ其餘の経を掩

ハば小置くあり、

問 経帯<sup>キョウタイ</sup>を組立て有名あるハ何地あるや、

答 「ワル井ツクシヤル」の「コンヘントリ」あり、

問 英國の絹を織るを十分ニ確定する扶

助<sup>トク</sup>とあるハ乃ハ何支ありや、

答 「ナントス」の命令書を廢するハ因り千六百



八十五年<sup>ニ</sup>我<sup>ニ</sup>真<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>佛國の「プロテスタント」キ  
 リスチアンの<sup>ニ</sup>宗<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>首<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>殘<sup>ニ</sup>酷<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>取<sup>ニ</sup>扱<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>あり、  
 問 「ナント」ス乃命令書トハ如何あるものあり  
 や、

答 佛國の善王<sup>ニ</sup>顯<sup>ニ</sup>理<sup>ニ</sup>第<sup>ニ</sup>四<sup>ニ</sup>「<sup>ニ</sup>ヒ<sup>ニ</sup>ー<sup>ニ</sup>グ<sup>ニ</sup>エ<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>ット<sup>ニ</sup>」即<sup>ニ</sup>キ<sup>ニ</sup>プロ  
 テスタント<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>教<sup>ニ</sup>法<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>自由<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>奉<sup>ニ</sup>ぜ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>許  
 一且<sup>ニ</sup>其人<sup>ニ</sup>及<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>持<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>品<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>保<sup>ニ</sup>護<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>べ<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>為<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>出  
 セ<sup>ニ</sup>律<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>云、

問 其律を破れる愚王ハ誰ありや、  
 答 ロイ<sup>ニ</sup>区<sup>ニ</sup>第<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>四<sup>ニ</sup>あり、此王ハ「プロテスタント」

の取扱を甚だ悪くありて以て其領國を去る  
 こと決定せしむ、

問 英國ハ避け来りハ幾許人ありや、

答 五萬戸以上あり、而して其内ハ絹を織る者  
 最多し、

問 其莫の起りハ英國何王の治世ありや、

答 第一<sup>ニ</sup>ム<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>第二<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>治<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>あり、此王ハ頑固なる  
 加<sup>ニ</sup>特<sup>ニ</sup>力<sup>ニ</sup>なりと<sup>ニ</sup>虫<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>引<sup>ニ</sup>受<sup>ニ</sup>け<sup>ニ</sup>ず<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>難  
 たりり、

問 英國ハ最大なる織絹局ハ何處カありや、



答 「マンチエートル」及び「倫敦」の「スピタルヒール」  
あり、

問 「プロケード」とハ甚麼様のもりありや、

答 衣服及び家室の飾の為ハ金銀及び緞の縲  
を以て織成したる及物より花弁及び其他  
乃模様を縫紉したるものあり、然れ共其價乃  
貴きと汚垢ハ染易きを以て今之を不用  
とあつたり、

問 「レス」類ありのハ甚麼様もあるものありや、  
骨或ハ象牙ハ造れる許多の索條と許多

乃細縲とを組合せたる紐ハ其骨索の各  
條も亦細縲の少量を含めり、

問 「レス」の模様ハ如何にして造れるや、

答 強剛羊皮の一片ハ數孔を穿ち其孔ハ鐵  
を刺し透し且つ其縲を孔の周圍ハ組合せ  
て以て模様を造るあり、

問 英國の何處ハ此製造局の為ハ特ハ有名か  
りや、

答 「ロッキングハム」「レイセストル」及び「デルビー」  
あり、而して往昔の「レス」を産する名所ハ「バ



キングダム」の地方あり「デホンシル」部内の  
「ハートン」ハ今も尚「レ」の産物を以て有名  
あり、

問 上好ふる「レ」の為小久しく有名あり

處ハ何地ありや、

答 「アラスル」の白手義「アントエル」の白手義「ハ  
レンション」子「聖佛」國の「マクリ」の白手義及び  
「アランドル」の諸地あり、

問 點刺「レ」ハ如何なるものありや、

答 方今ハ之を見るも稀あり、其ハ針を以て刺

したるものあり、

問 「ロ」の廣大なる製造局ハ「ライムリック」阿

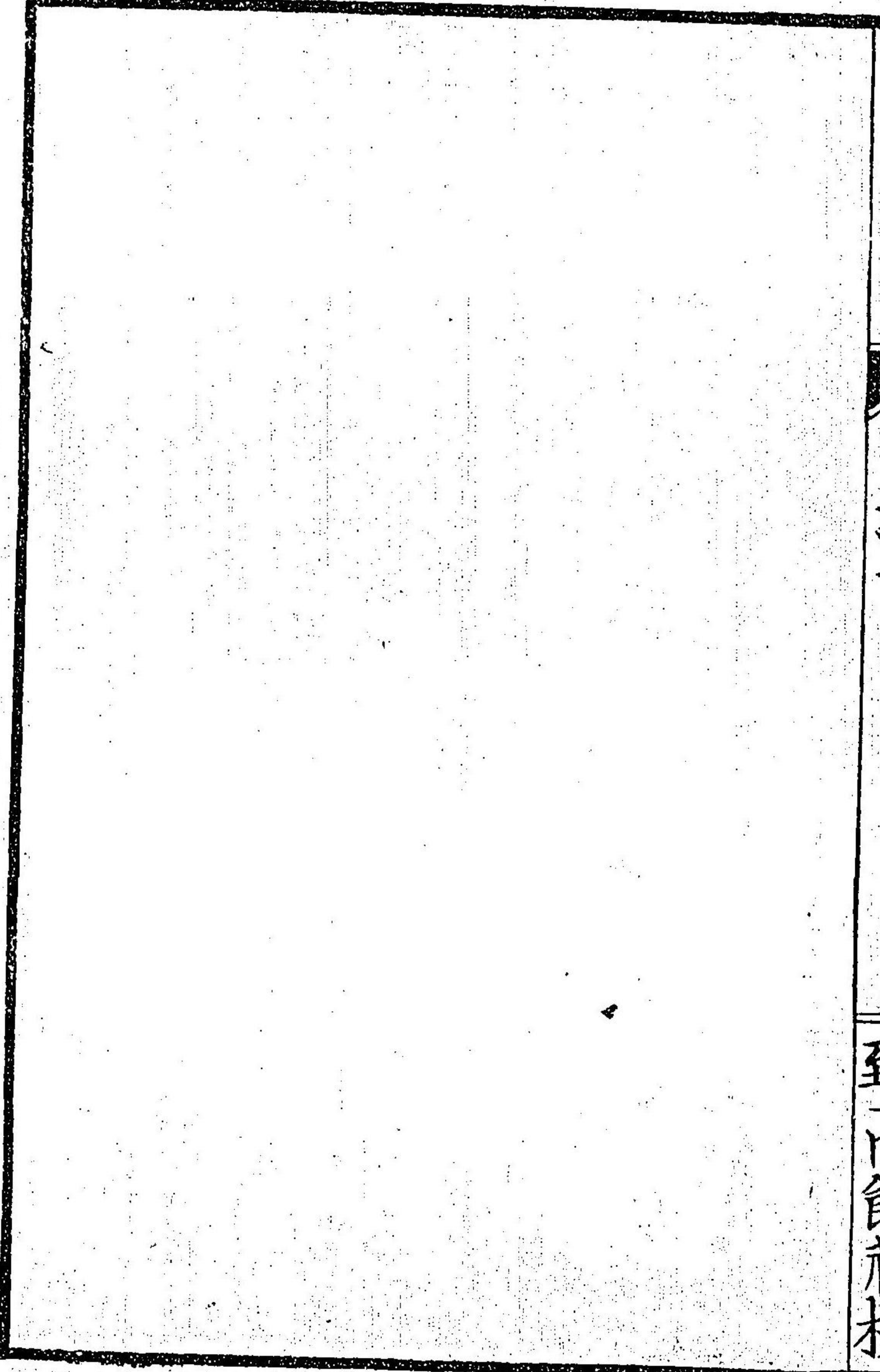
蘭地名ハ定りらばや、

答 然り、其地ハ「点刺」及び「ライル」レ

「ス」夏用の細を精密に模造せり、而して千八  
百二十九年我文政小凡二十名の工人を「ハチ  
ングハム」より呼び寄せた大々其功績を證た  
たり、

幼童手引草三編卷之下終





明治六年第十月新鑄

幼童手引草 杉田玄端譯述 初編二冊 追々出版 全十六冊

此書は西洋の日用の飲食衣服手道具家什婦人縫鍼の道具あり  
坐敷の飾付置物文房具其他藥品漆物等に至るまで其起源の年代  
工夫人の姓名并其製作用法効能等問答の取綴り幼童家より易く認  
たる書なまば幼童の輩一覽して忽ち物識なるを得べし故に幼童  
を教諭する書方今世に數多の書あり雖も此書に優るものあり

製藥式 同 譯述 全三冊 並刺

此書製藥の配合法開始して雜合此查出法質造藥の檢點方及び天然の  
性能より以て疾病に用ひて効あり所以服量及び禁忌に至るまで明細に記述したる  
書を醫家勿論藥家及藥舖を産業とする者居常缺かば要典也

支那の官氣反



東京書林

嶋村屋利助

中外堂梅郎

丸屋善七

山城屋佐齋

致高館藏  
坂成本所

勝倉半兵衛



